12．京都府中北部の戦争の記憶の記録化

廣野　勝

1．調査概要

ACTR 事業「戦争の記憶の記録化と次世代への継承の仕組み構築」（代表：上杉和央）は、戦後 80 年が近づく中で戦争体験者や遺族、帰還者等に調査を実施する最後の機会と捉え、戦争の記憶を記録として残し、展示や平和学習を通して次世代に継承していく取り組みを構築していくことを目的としている。

以下の日程で聞き取り調査を実施した。

日時：2023 年 7 月 12 日 14：30 ～ 15：30、場所：文化遺産学実習室、インフォーマント：K 氏、調査者：奥谷三穂（共同研究員）、上田龍摩（4 回生）

日時：2023 年 8 月 21 日 13：30 ～ 14：30、場所：京丹波町質美、インフォーマント：H 氏、調査者：奥谷三穂、廣野勝（3 回生）

日時：2023 年 8 月 23 日 13：00 ～ 14：00、場所：南丹市園部町南八田、インフォーマント：T 氏、調査者：奥谷三穂、廣野勝・山下悠衣奏（3 回生）

日時：2023 年 9 月 1 日 10：30 ～ 11：30、場所：京丹後市網野町網野、インフォーマント：M 氏、調査者：奥谷三穂、廣野勝・藤田尚希（3 回生）

2．成果

遺族への聞き取り調査が中心となったが、遺族の中に残る戦没者の記憶を聞き取ることができた。また、遺族が戦争体験者である場合には戦時中の様子も聞き取ることができ、戦争の影響を様々な形で受けていたことも知ることができた。

また、『福知山聯隊史』（福知山聯隊史刊行会、1982）、京都府中北部の各町史、郷土誌に記載されている戦没者名の中から沖縄戦で戦死した人を抽出する作業をおこない、その中から場所が判明している人を抽出、さらには場所を特定できた人はグーグルマップを用いて地図に表示する作業を実施した。戦没場所と戦死人数を示した地図では、戦没者が多い場所を可視化することができた。戦没日時と戦没場所の対応関係を示した地図では、昭和 20 年（1945）4 月は沖縄本島中部での戦没者が目立つ一方、6 月になるにつれて南部での戦没者が増えることを示すことができたため、沖縄戦の戦況や流れと一致することを確認できた。さらに、場所を特定できた人を京都府の出身地ごとに分類したうえで出身地ごとに戦没場所と戦没日時、戦没者を地図上に表示できるようにした。

以上の成果の一部については、2023 年 12 月 13 日におこなわれた中間報告会で発表した。

編集後記

フィールド集報の組版作業は、歴史学科文化遺産学コースの考古・建築・地理・文化情報の合同実習メニューとして学生が Adobe 社の InDesign を利用しておこなっている。

今年度は、３年ぶりに多様な場所・フィールドで調査をおこなうことができた。調査時だけでなくその後の作業においても多くの方々からご協力を賜った。ここに改めてお礼申し上げる。

海外の調査も徐々にではあるが再開されるようになった。来年度はまた違うところに行きたいと思う今日この頃である。（き）

京都府立大学文学部歴史学科
フィールド調査集報　第 10 号

編集・発行　京都府立大学文学部歴史学科
〒 606-8522　京都市左京区下鴨半木町 1-5
発　行　日　2024 年 3 月 30 日
印　　刷　株式会社 北斗プリント社
〒 606-8540　京都市左京区下鴨高木町 38-2